



## フリースペース 遊悠楽舎 代表 明石紀久男さん

不登校の子ども達と真剣に向き合い、支援する大人も含めゆったりとした時間と空間を共有することで心や体を開放し、一緒に生き合っていきたいと願って活動を続けている明石紀久男さんをご紹介します。

3人のお子さんの父でもある紀久男さん、末のお嬢様が誕生した20年前、妻の則子さんとセーターを企画デザインする会社(株)マスタッシュを設立(現在も社長と代表の2足のワラジ)、必然的に関わるようになった子育てを通して保育園の送迎をはじめPTA活動や学童保育に参加するようになります。子ども達のそばにいる時間が増える事で学校という枠組みの中で多くの子が疲れたり苦しんでいる現実を知り父母達も悩んでいる姿に接するようになります。'95-'98臨床心理の学校に通いカウンセラーの資格を取得しますが“心の持ち方を変えて”等カウンセリングだけで解決する事の限界や社会に対する疑問から、学校と対等でいながら、もっと自由で市民的な感覚で向き合って生きていくもう1つの軸として子ども達と一緒に変わっていける場をという思いが募り、'99年「市民立の学び舎をつくる会」結成を経て2001年フリースペース「木曜楽舎」



を野外活動センターに開設、翌年「遊悠楽舎」と名称を改め週2回の開催に至っています。スタッフの基本姿勢は“子どもに求められた時は応える事”、カリキュラムに沿って何かを行なうのではなく、じっくり自分自身や他の人と向き合う時間を大切にしています。そんな中子ども達が決まっていかなうのは“その日の記録を何らかの形で残す事”、とはいっても絵や線画だったり日付と名前だけでもOK。ゆったりとした時間と空間の中で人との関わりを通して自分自身がやりたい事を発見し、目標が見える事で行かれなかった学校へ自ら復学していく子ども達の姿から「本当に生きるって、言われた事をするのではない」と問題提起しているのに気付かせてくれたとおっしゃる紀久男さんです。時には

## この人あの国 こんなの

読者の皆様に登場いただくコーナーです。取材依頼もお気軽にどうぞ!

この場に来れるようになるまで何ヶ月もかかるケースもあるそうですが、そのプロセスこそ重要である事を実感しています。

定期的な通信の発行や親の会も開催、“一緒にいるけど同じじゃない・同じにしてるけど一緒じゃない”を前提に違いを認め合い共に生きるユニバーサルデザインやジェンダーの視点も持ち合わせた方です。今月は3周年記念イベント(→お知らせ掲示板参照)も企画、他団体との交流・情報交換や市の教育研究所適応指導教室の生徒・県のボランティア研修生受け入れなど行政とも連携を深めています。

よき理解者でもある則さんは素材を生かすニットデザイナーとして35年、“KORINOA”というご自身のブランドをデザインし続けていらっしやいます。



- 遊悠楽舎 ■逗子市野外活動センター
- 原則木曜日と土曜日 ■10:00-16:00
- 参加費 月/18,000円
- 見学無料 \*事前にご連絡下さい。
- 090-4244-6093 ■yuyu@spitz.net
- <http://www.suzume.com/~niitsu/yuyu/>